

ともにつくる秦野

令和8年第1回定例会は、新年度予算案などを審査する重要な議会である。施政方針に対し原聡議員が代表質問を行い、古木勝久議員、桑原昌之議員、田中めぐみ議員が一般質問に立った。今号では一般会計予算案に対する修正動議を含めて、その一部を報告します。

■市民に寄り添い現場の整備が先行する現状に対し、事業規模や財政負担の不確実性、さらには市民合意の不足を指摘し、丁寧な合意形成を含めて事業の進め方の見直しを要望した。

子育てでは「ほけつ」と21に相談体制の強化が示され、対象は妊娠前から18歳までの子どもの保護者とその家族、子ども自身となったため、新たに入りやすい工夫などの環境整備を要望した。防災では情報システムの機能強化が進む一方、効果的な



原 聡
今泉 2期目 委員長
・総務常任委員会
代表質問動画はこちらから
090-2667-5499

今後現場や地域の声に耳を傾け、市民の暮らしに直結する課題を捉え、実効性ある施策と分かりやすい説明を求め、議会の立場から提案を行っていく。



古木勝久
南が丘 4期目 委員長
・総務常任委員会
一般質問動画はこちらから
090-6010-7129

個人群等の様々な情報を共有し、更に組織体制の強化を図りながら、鳥獣被害の対策を講じることが要望した。

2043年には、市内の空室率も20%に迫るという予測もあり、「空室ながら更新をしていく計画にしない・させない」啓発に努め、宅建協会などの連携や人員体制を強化するよう要望した。

本市は、送水管と配水管を合わせて約700kmの管路を常時監視して維持管理している。今後の水需要減少を踏まえたデジタル活用について「アナログ帰」が話題になっている中で、本市の小中学校におけるデジタル活用の現在地を確認し、子どもたちの健康に留意しながら、デジタルとアナログの良さを生かした教育活動に繋げるよう専門家として提言した。



桑原昌之
北矢名 1期目 副委員長
・環境都市常任委員会
一般質問動画はこちらから
080-5375-3240

融機関へ利用の実態調査をし、活用の再検討を要望した。また、今後、多世代交流施設が、どのようになにに繋がるのか、計画で示されるが、疑問を感じている市民も多いため、丁寧な合意形成を要望した。



田中めぐみ
曾屋 1期目 副委員長
・文教福祉常任委員会
一般質問動画はこちらから
090-5752-8260

本市の個別計画の作成状況は、本年1月末現在、高齢者、障がい者など避難行動要支援者名簿の対象者は1495人で、作成率は12.7%である。その中で重要となる更新頻度を定めることや、福祉避難所の拡充、移動支援について要望した。

一般会計予算案 に修正動議

「ともにつくる秦野」は、多世代交流施設整備に賛成の立場である。しかし、本定例会議では、より多くの市民の声を聞きながら事業を進めること、約40億円の巨額事業には最上位計画への明記や基本計画の提示、設計を経て予算化する手順を丁寧に踏むことが重要だと考え、用地確保費を削除する修正案を提出した(賛成5、退席4、反対13で否決)。秦野駅北口周辺が真ににぎわうためには、より丁寧な対話を重ね、多くの市民とビジョンを共有することが必要不可欠であると今後も訴えていく。



修正動議の動画はこちら